

令和7年度第2期常陸太田市まち・ひと・しごと創生有識者会議効果検証結果

1. 重要目標達成指標（KGI）の達成状況・基本目標に関する有識者会議意見

	基本目標	KGI	基準値 (H30)	実績値 (R6末)	目標値 (R6)	達成率 (R6末)	有識者会議意見
1	稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする	市内総生産額 市民1人当たりの平均所得額 (※最新の実績値：R4)	115,233 百万円 (H29) 2,724 千円 (H29)	114,497 百万円 (R4) 2,772 千円 (R4)	117,625 百万円 2,920 千円	97.3% 94.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな視点で企業、創業の促進に力を入れてはどうかと考える。例えば、今後成長産業である「ドローンビジネス」等を市の中心に据えて、他の市町村との差別化を図ってはどうか。 ・国からの補助金等をうまく活用しながら、企業、創業の促進が図られることを期待する。 ・企業、創業促進に関しては、市内で活躍している起業家、多くの市民の声などを積極的に聞くなどして、市の企業、創業のアイデアを収集することも大事であると思う。 ・農業について、「条件不利な農地の有効活用」は、どうするのか。特に、耕作放棄地が毎年増加している水府地区、里美地区での農地の有効活用は、喫緊の課題である。 ・KPI「認定農業者数」について、市の基幹産業となっている農業を今後どう維持していくかが大きな問題。現在の農業従事者の年齢、今後何年間農業に従事できるか、今後農業従事困難となる理由等を調査し、その結果を基に、農業法人を立ち上げ、農地の集約化による農業経営、農業機械のリース等による課題解決などに積極的に取り組むことが大事になってくると思われる。
2	本市とのつながりを築き、本市への新しい人の流れをつくる	転入者数	1,033 人	904 人	1,300 人	69.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体も同じような「移住・定住促進」に取り組んでいる中、どう差別化をつけるかが今後の課題であると思う。 ・「交流人口の拡大」に関して、今後、本市だけではなく、県北地区あるいは県と連携を図り、他市町村の観光施設との連携等が改善策につながってくるのではないかと。
3	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	婚姻数 出生数	134 組 217 人	76 組 149 人	180 組 270 人	42.2% 55.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・「婚姻数」「出生数」「子育て世帯の社会増減数」のいずれの進捗状況も低い結果であるが、こうした動向は多くの自治体でも見られるので、数だけにとらわれることなく、「子育て世帯」の本市での満足度（Well-being）を調査してみてもどうか。
4	ひとが集う、安心して暮らすことのできる魅力的な地域をつくる	市民アンケートにより「住み心地がよい」と答えた人の割合	41.4% (R1)	45.9%	60.0%	76.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・「安心して暮らせるまちづくりの推進」としてのラピッドカーの運用は、今後も継続してもらいたい。 ・高齢化が進む本市においては、訪問医療、訪問看護の充実を、医師会等と連携を図り、市の施策の一つとして考えてもらいたい。 ・今後免許返納する高齢者が増え「買い物難民」「通院難民」等が出てきた時に、市はどのように対応していくのか、今から方策を検討しておく必要があると思う。 ・買い物の観点からまちづくりを評価するならば、市全体の店舗数や店舗の種類、所在箇所を見て、市全体が「便利で魅力的なまち」になっているか、評価すべきであると考え。 ・各施設とも魅力的な事業等を展開し、利用者数をあげる努力をしているが、市内の生涯学習センターはじめ図書館、地区公民館など、各施設とも老朽化し、空調設備はもちろん Wi-Fi の設備なども十分でなく、利用者にとっては魅力的な空間とは言えないところがある。

2. 重要目標達成指標 (KGI) の達成状況・基本目標に関する有識者会議意見

	基本目標	事業の目的	事業内容	有識者会議意見
1	<p>つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト (※事業実施主体：茨城県)</p>	<p>これまでの水郷筑波地域での成果(つくば霞ヶ浦りんりんロード)を活かし、特に人口減少が著しい県北、県央地域において、新たに設立した官民の協議会と連携しながら、継続したサイクルツーリズムの推進による地域振興につなげるとともに、移住・定住の促進に関わる施策を推進することで、将来的に人口増大及び産業振興、また地域の雇用確保に繋げる。併せて、サイクルツーリズムによる滞在型観光の構築による消費喚起策を講じ、自転車活用推進によるサイクリング立県いばらきとしての地域ブランド確立を通じ、地方創生を実現する。</p>	<p>1. これまでの主な取り組み サイクリストを対象とした誘客促進、利便性向上として、市内施設等に駐輪ラック、空気入れ、修理用工具セットの配備(既存の配備施設に対する追加配布含む)を行った。 (配備済施設：竜神大吊橋、竜っちゃん之湯、かなさ笑楽校、ぬく森の湯、西山の里桃源、竜神カフェ、道の駅ひたちおおた、物産センターこめ工房、西金砂湯けむりの郷金砂の湯、西金砂そばの郷そば工房、ほか市内コンビニエンスストア1件) 併せて、総合福祉会館敷地内に、県内サイクリングルートマップ看板を設置した。 また、水戸商工会議所主催の「水戸八景グルメライド2024」において、常陸太田エイドとして蕎麦やおにぎりを提供し、市のPRを行った。</p> <p>2. 今後の展開 引き続き、茨城県や近隣市町村とサイクルツーリズムの推進に向けた取組を行っていく。 県主催のイベント等、自治体をまたぐ大規模イベントについても沿線市町村と協力して対応しつつ、地域一帯にサイクルツーリズムが根付くよう、主体性や継続性の確立を目指して事業に取り組んでいく。</p>	
4	<p>自動運転の社会実装を見据えた MaaS × e コマース推進事業</p>	<p>自動運転車両を導入し、中心市街地及びその周辺地域並びに山間部の移動性の向上、持続可能な物流・公共交通ネットワークの構築を図ることで、地域に新たな事業や産業を生み出し、雇用の機会を創出することで地域の魅力を高め、生産年齢人口の流出を防ぐとともに、活力あるまちづくりを推進し、地方創生を実現する。</p>	<p>1. これまでの主な取り組み</p> <p><u>令和4年度</u> 市街地(駅～市役所)における自動運転EVバス実証運行。 市街地での自動運転の安全性及び社会受容性の検証。 MaaS や e コマース等の実施に向け、自動運転車両と既存の公共交通による貨客混載の導入可能性について調査を行った。</p> <p><u>令和5年度</u> 自動運転EVバス定常運行(R6.2.16～) 東部地区及びその周辺(約3.3km)において自動運転EVバスの実運行を開始した。 さらにMaaS や e コマース等の実施に向け、運輸事業者、路線バス事業者、地元スーパー等とともに、自動運転EVバスと連携した貨客混載の実証実験を実施した。</p> <p><u>令和6年度</u> 車両を2台に増台し、駅、病院など利用者の声をもとに運行エリア拡充した運行を行った(R7.2.18～、北回り約7.7km、南回り約7.0km)。また、取扱店舗を拡充して貨客混載の実証実験を実施した。更に、「常陸太田市版MaaS」の構築を目指して、特に高齢者等のスマートフォンを活用しての、外出機会の創出を目的にMaaS事業の有効性について検証をおこなった。</p> <p>2. 今後の展開 特定の運行エリア内で運転者なしで完全に自動で運行することができるレベル4自動運転を早期に実現し、担い手不足の解消、交通事故の減少、環境負荷の低減などを推進し、活力あるまちづくりと、常陸太田市から自動運転EVバスと連携した地方創生を発信していく。また、山間部等、移動が限定されるエリアにおいて有用性の検証を行い、既存の公共交通と連携したより利便性のたかい公共交通の実現を図る。</p>	